

室内楽コンサートにおける多様性、公平性、包摂度について ～コンサート運営実務における実例として

村林 基彦（一般財団法人 ルンデ）

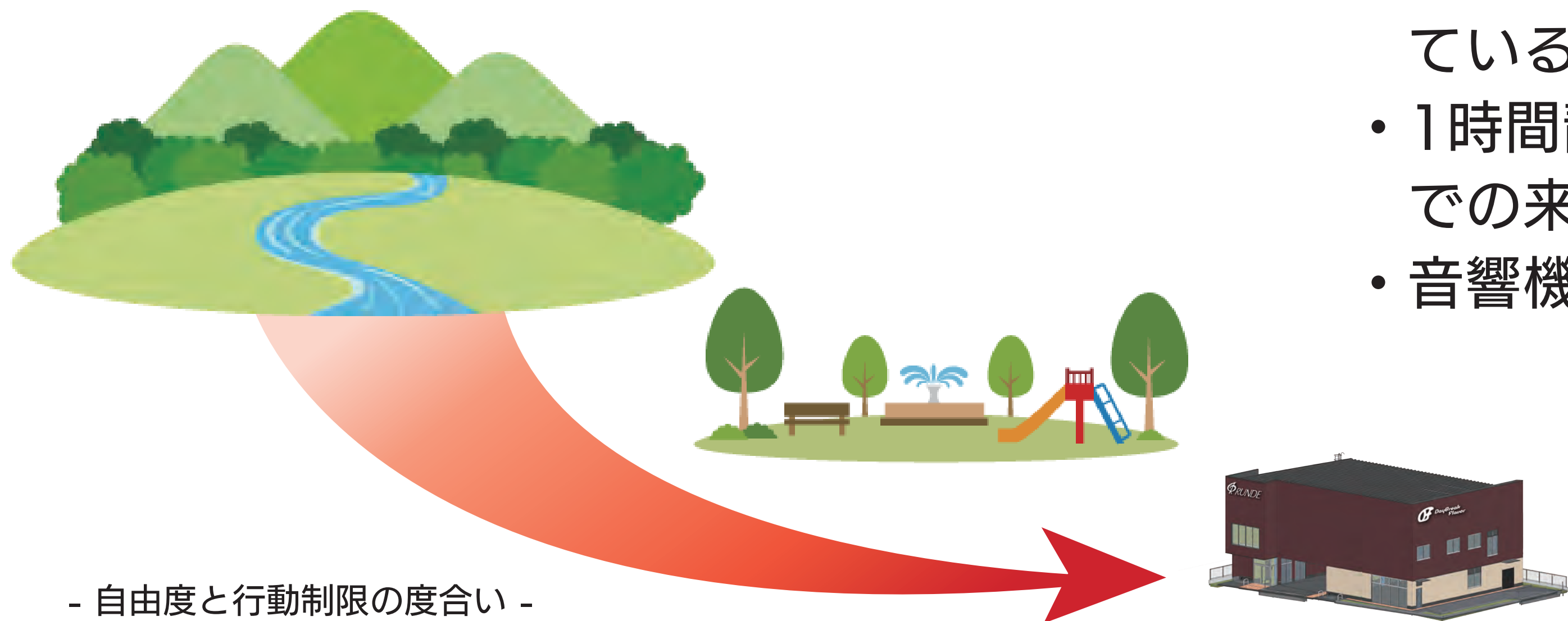


楽器の音を音響機器を使用せずに客席に届けるための制限



コンサートホールは基本的に来場者に主目的以外の行動を著しく制限します。
来場者の支払う対価に見合った空間を最低限保証することを、まず会場、主催が決めることになります。

- ・長時間の集中力の維持などご自身の行動制御が出来ない未就学児の入場はお断りしている
- ・1時間静かに椅子にすわってられない等、ご自身で行動制御が難しい方は保護者同伴での来場をお願いしている
- ・音響機器を通さず、ヘッドフォンを提供できないため難聴者への対応が出来ない



- 自由度と行動制限の度合い -

全ての人に平等に開かれている場所ではありません。

包摂度が限られた空間内での多様性と公平性



出演者においても、国内だけでなく様々な国から様々な思想をもった音楽家が舞台にたっています。

出演者＞ご自身以外の来場者＞来場者ご自身＞ホールスタッフ＞主催者

ご来場者の皆さんへはコンサート中のこのような優先順位を理解していただくよう願っています。
「音楽を聴く」「ステージを観る」ことをその場に集まる来場者の主目的としてこの優先順位を念頭にお互いの行動を尊重しうるかぎり、対価を支払っていただくことで誰でも自由に参加出来る場所です。



〈施設のバリアフリー〉

入口から客席までの間はエレベーターの移動があるものの段差はなく、車椅子、杖の使用が必要な方も安心してご来場いただけます。

車椅子や介助が必要な方は事前に申し出ていただくことで優先入場していただき、自由に席を選んでいただけます。

客席に段差がなく、椅子も取り外し移動可能にしたホール設計時から、この場に来ることを望む人を取りこぼさないという考えを実現した空間になっています。

公平性が豊穡をもたらす音楽空間

観客

ルンデの主催公演では主催者からの招待券の発券をしていません。

（出演者および音楽事務所からの縁故者に対する招待券の発券はあります）

狭い空間での緊張感や公演に対する期待度は隣席に伝播し会場内の温度感、雰囲気作りに影響しています。

客席を埋めるだけの目的の招待者が交じることで観客間での温度差が生まれこの雰囲気の伝播性に翳りが生じる可能性があります。

観客満足度が主催者への信頼となり、出演者やプログラムをこえて「場」のリピーターをうむ原動力になります。

出演者

企業の主催、行政機関からの補助がない限り、無料コンサート、格安コンサートは、出演者、スタッフなどの善意や良心を搾取してまで実現するものではないと考えます。

来場者が支払う対価が出演者に反映される場であるというメッセージが伝わることで、世界のトップクラスの演奏者が来場する機会がうまれます。



コンサートを続けて行くために寄附をお願いしております

京都大学コミュニケーションデザインとDE&Iコンソーシアムシンポジウム2025 2025年6月13日
京都大学百周年時計台記念館 国際交流ホールII・III

一般財団法人ルンデ 名古屋市昭和区桜山町1-21 <https://dbf.jp/runde/>